

1. 教科の到達目標 (学習のねらい、身に付けたい力)

- ・自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技術を身に付ける。
- ・観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- ・自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

2. 年間学習計画と単元(題材)

月	単元名	内 容	達成目標(ねらい)
4 5 6 7 9 10	化学変化と原子・分子	<ul style="list-style-type: none"> ・物質のなり立ち ・物質どうしの化学変化 ・酸素がかかわる化学変化 ・化学変化と物質の質量 ・化学変化とその利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・物質は原子や分子からできていることを理解し、記号で表すことができる。 ・化学変化を、原子や分子のモデルと化学反応式で表すことができる。 ・酸化と還元のおしくみについて理解する。 ・化学変化の前後の質量の総和が等しいことを理解する。 ・化学変化には熱の出入りが伴うことを理解する。
4 5 6 7 9 10	生物のからだのつくりとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> ・生物と細胞 ・植物のからだのつくりとはたらき ・動物のからだのつくりとはたらき ・刺激と反応 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物と細胞について理解し、観察に関する技能を身に付けさせる。 ・植物のからだのつくりとはたらきについての関係性を見いだすことができる。 ・動物のからだのつくりとはたらきについての関係性を見いだすことができる。 ・刺激と反応について理解する。
11 12 1 2 3	天気とその変化	<ul style="list-style-type: none"> ・気象の観測 ・雲のでき方と前線 ・大気の動きと日本の天気 	<ul style="list-style-type: none"> ・気象要素、気象観測、霧や雲の発生などについての基本的な概念や原理・法則などを理解する。 ・霧や雲の発生、前線の通過と天気の変化などについての基本的な原理・法則などを理解する。 ・日本の天気の特徴、大気の動きと海洋の影響、自然の恵みと気象災害などについての基本的な原理・法則などを理解する。
11 12 1 2 3	電気の世界	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気と電流 ・電流の性質 ・電流と磁界 	<ul style="list-style-type: none"> ・静電気と放電を関連させ、放射線についてもその性質と利用について関心をもつことができるようにする。 ・電気に関する観察、実験を通じて、回路の各点に流れる電流や、各部分の電圧について調べる技能を身に付けるとともに、電流、電圧のはたらきを理解する。 ・磁界と磁力線との関係、電流の磁気作用に関する基本的な概念を観察、実験を通して理解する。

3. 評価方法

評価の観点	評価規準	評価方法
知識・技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。また、観察、実験などに関する技能を身に付けている。	・課題への取り組み ・実験観察レポート ・定期考査 ・小テスト
思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、規則性や関係性を見だして表現している。また、探究の過程を振り返っている。	・課題への取り組み ・実験観察レポート ・定期考査 ・小テスト
主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に進んで関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	・課題への取り組み ・実験観察レポート ・振り返りシート

4. 授業の取り組みについてのアドバイス

(1) 日々の授業について

- ①忘れ物がないようにしましょう。
- ②ノートは、後で見直したときに見やすいように書きましょう。
- ③積極的に考えたり、発言したり、図や文章で表現したりしましょう。

(2) 実験・観察について

- ①理科室の使い方、実験器具の使い方を守りましょう。
- ②共同実験者と協力して取り組みましょう。
- ③方法や目的を理解したうえで、観察・実験に取り組みましょう。
- ④観察・実験の記録をとり、結果からわかることを考えて表現しましょう。

5. 家庭学習について

(1) 復習

- ①その日の授業で使ったノート、プリント、教科書などをもう一度読み、授業の内容を思い出しましょう。
- ②特に重要な内容は、その日のうちに覚えましょう。
- ③時間が経って忘れた頃に再び復習し、何度も繰り返すことで、少しずつ身に付けていきましょう。
- ④余裕があれば、要点をまとめたノートを作ってみましょう。

(2) 宿題

- ①宿題に取り組むことで、自分自身で定着度を把握しましょう。
- ②忘れていたこと、わからないこと、難しいことはノートや教科書で調べましょう。
- ③わからないと思いついてしまわないで、できるところに取り組みましょう。

6. 定期テスト前の取り組みについて

- (1) 誰でも、習ったことを忘れます。忘れた頃に復習をすることが効果的です。
- (2) 習ったことの確認（記憶のインプット）ができれば、問題を解く練習（記憶のアウトプット）をしましょう。
- (3) 日頃から勉強をする習慣が大切です。テスト前に限らず、毎日勉強する習慣を付けましょう。

7. 苦手な人へのアドバイス

- (1) 教科書の太字の語句や、「ここがポイント」を中心に復習しましょう。
- (2) 教科書には各単元の最後に「学習内容の整理」のページがあります。要点がまとめてあります。